

地 域 の つ な が り

四日市居場所ネットワーク通信



第 17 号

発行月:2026年1月 発行者:NPO 法人市民社会研究所 (委託者 四日市市)

ニーズマッチング

第一学院高等学校四日市キャンパス×NPO 法人子ども食堂四つ葉 SK

「役割」から地域に関心を持つ

高校生年代の居場所づくりに関わる団体、事業所の方から、「高校生年代も何かしら地域との関わりを持ちたいと思っている子たちが多い」と聞きます。その背景には、小中学生は地域の行事等に参加する機会が多いのに対し、高校生年代になると参加する機会が減ってしまうことがあるのではないのでしょうか。そこで、ボランティア活動に関心がある高校生年代も多いことから、NPO 法人子ども食堂四つ葉 SK 協力のもと、12/13(土)開催の子ども食堂でのボランティア募集を行い、3名の第一学院高等学校の高校生が参加してくれました。



受付けを担当する高校生

子ども食堂四つ葉 SK は、毎月第2土曜日 10時～14時(予約制)に鶉の森で開催しています。今回のボランティアでは、準備や受付け、フードパントリーの袋詰めを担当しました。ボランティアに参加した高校生は「慣れないことも多かったが、精一杯周りを見て動けた」「ご家族やこどもたちの笑顔が見られて嬉しかった」「初めての私たちにも気さくに声を掛けてくれてすごく温かい場所だと感じた」等の感想があり、地域とのつながり、人との関わりから学びがあったようです。子ども食堂四つ葉 SK 松岡代表は「こどもたちの優しく接している姿、他のスタッフと一緒に楽しく会話をしている姿にホッコリした」とおっしゃっていました。高校生年代が地域活動に参加するきっかけや接点をつくることができました。



フードパントリーの袋詰め



子ども食堂四つ葉スタッフの皆さんと
円陣を組んでスタート



続「つながり」から生まれたこと

認知症カフェみなと憩いのカフェ



北勢地域若者サポートステーション

第14号四日市居場所ネットワーク通信で、みなと在宅介護サービスセンターと北勢地域若者サポートステーション（ほくサポ）のつながりから生まれたことを紹介しました。その後、12月にみなと在宅介護サービスセンターが運営する認知症カフェみなと憩いのカフェで、ほくサポの小林所長がほくサポの説明を行いました。これは、地域とのつながりを大切にするみなと在宅介護サービスセンターと、ほくサポのお互いが「ほくサポの取り組みを知ってほしい」という思いから実現しました。そうすると認知症カフェ参加者から、「(仕事をしていない人で) 気になっている人がいる」や「知り合いにほくサポを紹介してみる」等の声があり、知ってもらうことの大切さを感じました。また、ほくサポの支援対象にならなくても、困っている人がいることがわかり、他の相談支援機関につながることができました。

つながり知ってもらうことで、地域の困っている人をすくい上げられる。多分野のつながりが、分野の横断的な課題に対応できる、「つながり」から生まれた事例となりました。



ほくサポ小林所長



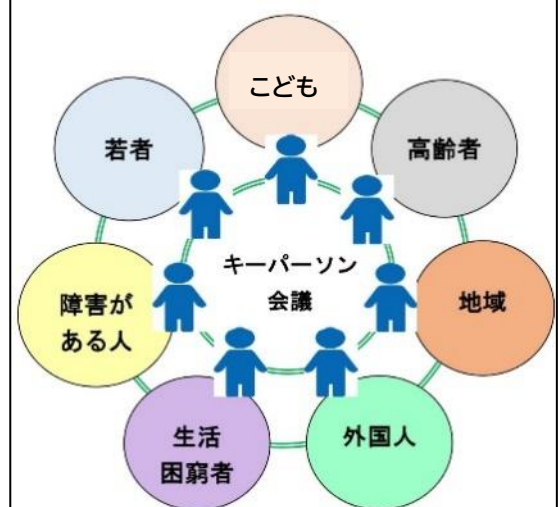
認知症カフェみなと憩いのカフェ

四日市居場所ネットワークとは

四日市市内には、こども食堂や高齢者サロン、学童保育所、認知症カフェなど、さまざまな福祉的居場所があります。こども、若者、高齢者、障害者、外国人、生活困窮者等のさまざまな分野の居場所がつながり、総合的な居場所ネットワークをつくっていきます。

居場所ネットワークができると、いろんな分野の居場所どうしの交流や、居場所を運営する人どうしが、すぐに困りごとを相談したり、情報共有できたりと、様々なメリットがあります。興味を持たれた方は問合せ先までご連絡ください。みんなで一緒につくりましょう！

四日市居場所ネットワークのイメージ



【問合せ先】※四日市居場所ネットワークに参加したい団体、事業所は、お気軽にご連絡ください

発行者：NPO 法人市民社会研究所（委託者：四日市市健康福祉部福祉総務課）

住所：〒510-0086 四日市市諏訪栄町 3-4

電話：059-355-5115 メール：ssk21ww@yahoo.co.jp ※電話は「伊勢おやき本舗」で出ます